

印西市長選挙が7月10日投票で行われます。印西市長の座は、北総線の中核的利用者である千葉ニュータウン市民の代表者として、市民の切実な北総線運賃値下げの願いを実現するために働く責任を負う、重要な位置にあります。北総線運賃値下げの運動を続けている北実会は、6月初めまでに立候補表明されていた中沢俊介氏と板倉正直氏のお二人の立候補予定者に、北総線運賃値下げのために、印西市長としてどのように取り組んでいくお考えであるかを聞きました。両氏から寄せられた文書回答をそのまま紹介します。

質問の前文

北総鉄道を高運賃で利用しなければならない高齢者や主婦は、都心との往來を制限され、通学生のある家庭は通学定期の25%値下げが維持されたとは言え、まだ他の私鉄の3倍という高運賃に家計が苦しめられています。緑豊かなすばらしい自然環境の千葉ニュータウン地域の発展を阻害しているのが、この北総線の高運賃であることは万人の指摘するところです。市民の願いの実現に奉仕、献身するのが自治体行政の役割であり、私どもは次の市長さんに「北総線運賃値下げの市民の願いの実現に向けて、行政としても全力をあげて努力して頂きたい」と願っております。

つきましては、このことに関して貴殿のお考えをお聞かせ下さい。

Q1

貴殿は北総線の運賃値下げのために、これまでにどんな活動を行ってききましたか。主な取り組みを簡潔に200字以内でお答えください。

中沢 しゅんすけ 氏

国・県・沿線自治体との連携及び規制緩和についての協議や、鉄道事業者（京成電鉄花田会長）との意見交換を行い、運賃の値下げと利便性の向上について、あらゆる方法を探ってきた。

いたくら 正直 氏

平成26年に印西市長として初めて北総鉄道の株主総会に出席し、京成電鉄から適正な線路使用料を取っていないことなどを追及しました。巨額の利益が出ている北総鉄道に自助努力での値下げを求めて、毎年8100万円支出してきた補助金を廃止しました。当初北総鉄道は、補助金を廃止すれば、平成22年から実施の通学定期25%値下げを撤回すると言っていましたが、交渉により、補助金なしで「通学定期25%値下げ」を維持・継続しました。

印西市長選挙 立候補予定者に聞く

Q 2

北総線高運賃をどうすれば下げられるとお考えですか。そして市長になられたら、運賃値下げのためにどんな取り組みを行うお考えですか。(400字以内)

Q 3

「北総鉄道株式会社が千葉ニュータウン鉄道株式会社に支払っている線路使用料の見直しが問題になっています。この両社の線路使用料の取り決めの更新期が、ちょうど新市長任期中の平成30年に到来します。その際に新市長は、北総鉄道株式会社の株主として、北総鉄道の利益になる方向で見直すように意思表示することが当然と思いますが、貴殿のお考えを120字以内で簡潔にお答えください。

中沢 しゅんすけ 氏

Q 2

子育て世代にとって、大きな負担となっている通学定期の割引を50%に拡大することで、保護者の負担軽減を図り、新たなスキームの構築で普通運賃の値下げにも取り組む。成田空港第3滑走路の整備や、都心直結線の機会を捉え、運賃見直しの協議を再開したい。

中長期的には北総鉄道が株式を公開（上場）し、京成電鉄との親子関係を解消することが望ましい。

Q 3

関係者間で適正な線路使用料を算出し、合意形成を図る必要があるが、現段階ではアボイダブルコストの負担が合理的と考えている。

いたくら 正直 氏

Q 2

印西・白井の両市で結成していた北総線運賃問題対策協議会（北対協）は、平成20年2月に国土交通大臣に要望書を出し、北総線運賃を他の鉄道運賃と同水準まで引き下げのために、京成電鉄から収受する線路使用料の適正・公平な設定、千葉ニュータウン鉄道に支払う線路使用料の見直しを要望しました。あわせて今日の北総鉄道の経営内容は、他を寄せ付けない高い利益率を上げ続け、懸案の累積欠損解消も見えてくるなど、大きく改善しています。

これらの課題を解決すれば運賃大幅値下げの財源確保は十分であり、高運賃で住民にしわ寄せする必要はなくなります。私はあらゆる機会をとらえ、これらの課題の実現を求めます。当面、印西市に事務局がある「北総線沿線地域活性化協議会」の活動強化、地域のにぎわい創出のための回数券の利用拡大などの実現を目指すとともに、本格的な運賃値下げ活動推進のために、他市と連携しながら取り組みを進めます。

Q 3

北総鉄道は、親会社との取引は「第三者との通常取引と著しく相違しない」基準で行うと言っています。千葉ニュータウン鉄道の経営状況をふまえ、「小室・印旛日医大間の運賃総額を線路使用料として支払う」という現行協定の見直しに向け、少数株主として意見を発していきます。